

〔玉城 勇議員 登壇〕

○13番 玉城 勇君 午後は大変だと思えますけれども、ゆっくり、静かにやっていきたいと思えます。それではきょうは2点の質問を準備してありますので、ひとつ丁寧な回答をお願いしたいと思います。

それでは1. 待機児童解消に向けての対策についてでございます。3月定例会においても質問させていただきました。（1）南風原町の待機児童数が昨年度とほぼ同数と思われるが、待機児童が減らない理由は何か。（2）待機児童解消に当面の対策はあるか。

（3）小規模認可保育園の3歳児受け入れに向けての調査及び可能性はどうなっているか。（4）本町の小規模認可保育園を卒園する3歳児の受け入れ先は確保されているか。（5）認定こども園設置の進捗状況はどのようになっているか。

2. 高齢者の生活をどう保障していくかということで、（1）高齢者が健康で生き生きと生活を送るために、どの様な取り組みがあるか。（2）高齢者の孤立を防ぐにはどの様な施策があるか。（3）本町の地域毎の高齢化率はどうなっているか。以上、ご答弁をお願いいたします。

○議長 宮城清政君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項1点目の待機児童解消に向けての対策の（1）についてお答えします。本町の特徴として、出生や子育て世代の転入が多いことが挙げられます。

（2）についてお答えします。待機児童解消に向けた当面の対策としましては、ことしの3月に見直しをしました町子ども子育て支援事業計画に沿った認可保育園の整備、さらに既存園が弾力化で対応している部分についても、定員見直しに向けて取り組んでまいります。（3）についてお答えします。小規模認可保育園の3歳児受け入れについては、国家戦略特別区域の認定により可能となりますが、定員19名以内での定員設定となり、必然的に既存のゼロ歳から2歳の定員を減らす必要があるため、その活用は考えておりません。

（4）についてお答えします。小規模保育園で保育を受けている2歳児につきましては、保育の継続という観点から、優先的に認可保育園へ入れるようにしており、本年度も全員入所しております。（5）についてお答えします。認定こども園の設置に向けては、開邦幼稚園が平成31年4月の開園を目指していますので、町も開園に向けて協力して取り組んでまいります。

質問事項2点目の高齢者生活をどう保障していくか。（1）についてお答えします。高齢者が健康で生き生きと生活を送るために、健康づくり事業、介護予防、日常生活支援総合事業、生きがいふれあい活動等に社協や地域と連携し取り組んでおります。（2）についてお答えします。高齢者の孤立を防ぐ施策として、地域ミニデイサービスや高齢者サロン、老人クラブ活動等による地域での交流の場づくり、在宅介護支援センターや社協のコミュニティソーシャルワーカーによる単身高齢者や高齢者世代の訪問等の見守り活動があります。（3）についてお答えします。本町の地域ごとの高齢化率は平成30年6月1日時点で、与那覇17.6%、宮城27%、大名23.8%、新川18%、宮平15.1%、兼城15.9%、本部13.8%、喜屋武22.8%、照屋14.8%、津嘉山12.7%、山川23%、神里30%、兼本ハイツ45.8%、第一団地32%、第二団地28.4%、東新川50.2%、北丘ハイツ33.7%、宮平ハイツ8.4%となっております。以上です。

○議長 宮城清政君 13番 玉城 勇議員。

○13番 玉城 勇君 ありがとうございます。それでは1点目の（1）から一問ずつ再質問したいと思います。再質問に入る前に、1番と2番とも町長が訴えております、公約にもしております、南風原町に住んでよかったと、あるいはこれからも住み続けたいという思いの皆さんがいっぱいおられます。そういう皆さんがこの提案をしております。そういう意味でお答えをお願いしたいと思っております。

1番目の（1）でございますけれども、3月の一般質問でも質問させていただきましたが、南風原町は待機児童がふえております。ですから去年よりことしのほうが44名ふえたと、これからもふえていくだろうと、そのときも提案したことがありますけれども、やはり那覇近郊で交通の利便性の高い本町でございますので、さらに集合住宅、マンション等も大分建築が進んでおります。また戸建ての住宅もふえているように思われます。そういう状況の中で認可園をふやしたり、あるいは小規模をふやしたりとやっておりますけれども、追いつかないという状況でございます。そういう中で今後、本町の取り組みとしてどのようなものがあるのか、それを教えていただきたいと思えます。ただ、出生や子育て世代の転入だけでは解決できないことでございますので、さらに進んで、どういった理由でふえているとわかりました。その待機児童を減らす努力としてはどういったことが考えら

6月19日（第3号）一般質問

れるのかですね。ですからこの中で1つだけ、隣の町の子供、新聞に載っておりました。保育士の不足によって定員割れというのはないのか、本町にはそういうのがないのか。全ての定員の定数が満たされて、さらに弾力化でふえているという状況なのか、園によっては定員割れがあるのかどうか、その辺はいかがですか。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 お答えします。待機児童の解消に向けては施設整備等で取り組んでいるわけですが、議員おっしゃいますように追いつかない状況です。主な要因は、先ほど答弁いたしましたように、出生数の多さや転入の多さ、実際、平成26年と30年を比較しますと、就学時の人口が366人ふえているという状況もありまして、その傾向はいまだずっと続いている状況です。もう一つ理由としましては、平成27年度の新しい制度になって、保育に申し込みできる要件といいますか、そのあたりが短時間の勤務、パートタイムでも保育を、入所を希望できるということもありまして、そういった拡大の部分でも申込者数がふえているという状況もございます。そういった形で申込者数が相当数ふえている中ではありますが、さらに今、議員おっしゃいましたように、その他の要因として保育士の確保の部分、その部分に関しましては本町でもその影響がございまして、本年度は4月1日時点で保育士の不足が4園で8人不足しておりまして、その保育士不足による定員割れが、28名の子が受け入れすることができない状況があるということでございます。

○議長 宮城清政君 13番 玉城 勇議員。

○13番 玉城 勇君 それでは部長、再度確認ですけれども、今、保育士が8名不足して定数割れが28名と、今現在はどうですか、まだそのような状況は続いていますか。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 現時点でもまだこの8人が採用できていないという状況でございます。

○議長 宮城清政君 13番 玉城 勇議員。

○13番 玉城 勇君 各園とも確かに保育士を探すのは大変だと思いますけれども、新聞紙上にもあるように、経験者の皆さんを再度確認といいますか、もう一度要請していくとか。一旦保育士を引退された皆さんでも、以前と現在とは難儀の度合いといいますか、苦勞の度合いというのは大分緩和されていると思うんです。ですから、そういう皆さんにもう一度相談をして、あるいは説得して現場に復帰してもらおうとか。結構、保育士の皆さん、せっかく資格を持っているのに他の業種に移ったり、そういう話が聞こえるんですけども、今給与の助成とか、あるいは一時金の助成とか、いろいろと制度がよくなってきていると。そういうことからしますと、もう一度現場復帰をお願いできるんじゃないかと思うんですけども、本町の考え方としてはどういうふうに取り組んでいこうかと思っておりますか。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 我々としても、資格は持っていらっしゃるんだけれども、保育の職に就いていない方々、潜在的保育士の方々を是非保育の職についていただきたいという思いはたくさんあります。どのようにしたらそういった形で、保育の職についてもらえるかという部分では、やはり先ほどの穀議員の質問でも答弁しましたが、保育士の労働環境ですね、きついという部分、その辺で解消できる部分は何かというところで、これまで手作業でやっていたいろいろな事務とか、そういった部分を、ICTを活用することによって簡素化できると。そういった部分の、その事業の導入をできるだけ早目に各園にも取り組んでもらいたいというのがありますので、その辺を園のほうにも推進して、とにかく保育士の日ごろの業務の効率化、少しでも軽減につながるような取り組み、そういった部分で保育士の確保を支援してまいりたいと考えています。

○議長 宮城清政君 13番 玉城 勇議員。

○13番 玉城 勇君 是非頑張ってくださいと思います。もう1回確認しますけれども、28名の子供が保育士の不足で入園できないということからしますと、この8名の不足で28名ということは、ゼロ歳から2歳児がほぼ該当しているのかなと思うんですけども、また場合によっては3歳、4歳、5歳児であれば、もっともっとふやすことができるのかなというのがあるんですけども、これは園の考え方といいますか、取り組みのほうでそういうふうになっているのか。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 職員の配置等については、それぞれ園の事情がございまして、園の方針ですね、その方向になっています。ただ、保育士が不足している部分では、

6月19日（第3号）一般質問

ゼロ歳児、1歳児、そのあたりの部分でどうしても不足が出てきますので、我々としてもとにかく、先ほど申し上げた方法等を、できる限りの支援をして確保を図っていきたくて考えています。

○議長 宮城清政君 13番 玉城 勇議員。

○13番 玉城 勇君 是非取り組みを強化して頑張っていたいただきたいと思います。

それでは（2）のほうに移りたいと思います。（2）の回答で、弾力化で大分対応されて入園をされております。そこで再度受け入れするために、今小規模のほうでも19名というところでやっておりますけれども、その小規模の認可保育園を60名、90名の認可園がありますが、そこに移行させることによってもっと受け入れができると思うんですけれども、その認可保育園に移行することが可能かどうか、これについてお伺いしたいと思います。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 小規模保育園から新たに60名とか90名規模の認可園への移行は、認可の要件を満たせば可能でございます。

○議長 宮城清政君 13番 玉城 勇議員。

○13番 玉城 勇君 その要件というのがクリアできるような要件なのか、あるいは少し敷地を2倍、3倍にしないといけないとか、あるいは建物を2倍にしないといけないのか、そういう金銭的なものが発生するのが大きいのか、園の園長、理事長たちが対応できるような、クリアできる範囲なのか、その辺はいかがですか。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 現在、そういった要検討を全部募集要項に掲載して、今公募をしているところでございまして、例えば本町内にある小規模の保育園が、現施設でそこを拡張してとなりますと、そこは全ていろいろ確認しないといけないんですが、ただ今、募集要項で掲げています要件を満たすことが必要最低限の条件でございますから、そのあたりをしっかりと見ていただいて、小規模事業者の方でも十分可能であるとは考えています。経験等、そういった部分では満たされてきていますので、あとはそういった敷地の面積とか、母体となる社会福祉法人の設備が必要になるのか、そういった部分の準備とか、その辺をしっかりとまた募集要項をごらんになって検討していただければと思います。

○議長 宮城清政君 13番 玉城 勇議員。

○13番 玉城 勇君 部長、公募するに当たって可能性のある園に対しての資料の送付とか、あるいは声かけをできたらお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

それでは（3）のほうに移りたいと思います。先ほど小規模認可保育園の3歳児受け入れについては、国家戦略特別区域の認定により可能であるが、本町はその活用を考えていないということでもありますけれども、小規模認可保育園の弾力化については何名まで今現在可能でありますか。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 小規模は19名がマックス定員でございますが、ゼロから2歳児までを預かっていますが、2歳児が3歳の受け入れの調整をしたにもかかわらず、調整できなかった場合のみ22名まで、プラス3で弾力運用が可能となっております。

○議長 宮城清政君 13番 玉城 勇議員。

○13番 玉城 勇君 今現在、平成30年に入って3歳児の受け入れができていない人数とか、あるいは小規模保育園が弾力化で何名受け入れしているかお願いします。

〔「休憩願ひします」の声あり〕

○議長 宮城清政君 休憩します。

休憩（午後1時52分）

再開（午後1時52分）

○議長 宮城清政君 再開します。こども課長。

○こども課長 前城 充君 現在4カ所の小規模がございまして、3歳児はゼロです。そして合計でゼロ歳から2歳まで74人受け入れております。

○議長 宮城清政君 休憩します。

休憩（午後1時52分）

再開（午後1時52分）

○議長 宮城清政君 再開します。こども課長。

○こども課長 前城 充君 4園で、平均で1.12、弾力で12%受け入れているという形になります。

○議長 宮城清政君 13番 玉城 勇議員。

○13番 玉城 勇君 先ほどは3名までは可能であるということですがけれども、今1.12と

6月19日（第3号）一般質問

いうことは5名程度になるんですか。もったいるのか、聞いておりますか。そこまでできないのかという。

○議長 宮城清政君 休憩します。

休憩（午後1時53分）

再開（午後1時54分）

○議長 宮城清政君 再開します。こども課長。

○こども課長 前城 充君 先ほどの利用調整をした場合の3歳児受け入れなんですけれども、今の弾力化はゼロ歳から2歳までのもので、実際19名定員をやっているのが、めだかとかくわの実とたいようのおか、ここの中であと2人まではゼロ歳から1、2歳の中で弾力化は可能という形になります。

○議長 宮城清政君 13番 玉城 勇議員。

○13番 玉城 勇君 再度確認ですが、今4カ所で76名は可能なんですよね。先ほど74名とおっしゃいましたよね。定員割れしているわけですね。それとさらに弾力化であと3名ずつできるわけですが、それだけの応募者がいないのか、それはどういうことか、教えてください。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 今19名定員でやっているのが、めだかとかくわの実とたいようのおかなんです。それでくわの実とたいようのおかは満杯で22名入っていますので、あとはめだかのほうで、ここはまた保育所の確保も関係すると思いますが、2人は可能。面積要件も関係しますので、このあたりで調整はできるかもしれませんが、よいサマリヤ人ではその10名定員でそのまま埋まっていますので、結局、数字上はあと2人という形になります。

○議長 宮城清政君 13番 玉城 勇議員。

○13番 玉城 勇君 わかりました。もしまだ埋まっていないようだったら、是非早目に、応募が来たらすぐ紹介するとか、時間を置かないように、是非早目に入所させるように取り組みをお願いしたいと思います。

続いて、(4)のほうに移りたいと思います。これを質問したのは、他の市で保育士の定数不足ということで受け入れできなかったということがあって、あるいは他の保育園との契約といいますか、協定ができなくて入所できないというのが新聞にも載っております、本町でもそういうのがあるのかというのを確認したわけですが、やはり小規模で2歳児までですが、卒園した場合に3歳児がどこに行くのかというのはやはり親のほうも心配ですので、ほかの市ではこれが対応できていないというのが半分ぐらいあるということで本町はどうなのかと確認したわけでありまして、幸いにも現在においては全員が入所されていると。しかも優先的に認可保育園に入所させているということでございますので、これについては、まだ取り組みについてはいい結果が出ていると思いますので、これからもできるだけそのように入所できるように取り組みを進めていっていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

それでは(5)です。これもほぼ毎回質問しておりますけれども、やはり隣の那覇市が非常に強力に取り組みをしております。本町もやっとなんと喜んでおりますけれども、是非答弁にもあったように本町も開邦幼稚園が来年4月に開園するという状況にございますので、是非協力をしていただいて、スムーズに運営できるように、これからも指導していただきたいと思います。それで質問ですが、このような認定こども園に希望する園がほかにないのか、無認可保育園等を含めて、希望あるいは検討しているという園は今のところいかがですか。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 ご質問の認定こども園の設立希望については、開邦幼稚園以外では今のところございません。

○議長 宮城清政君 13番 玉城 勇議員。

○13番 玉城 勇君 ありがとうございます。認定こども園がスムーズに行くように、再度ご協力を賜りたいと思います。それでは1は終わりました、質問事項2のほうに入りたいと思います。

(1)高齢者が健康で生き生きと生活を送るために、本町はどのような取り組みがなされているかということでございますけれども、いろんな事業を進めていると、あるいは開催をしているということでございますけれども、先ほど3つの事業が報告されましたけれども、この3つの事業をもう少し具体的に、各事業の内容について、二、三点でいいと思いますけれども、たくさんあれば二、三点で報告していただきたいんですけれども、お願

いします。

○議長 宮城清政君 保健福祉課長。

○保健福祉課長 大城美恵子さん まず、健康づくり事業の中では特定健診を含め長寿健診を実施し、保健指導に取り組んでおります。あと介護予防日常生活支援総合事業としては、水中運動教室、筋力トレーニング教室、地域の体操教室等を実施しております。生きがいふれあい活動等につきましては、老人クラブ活動や高齢者サロン等を社協と連携しながら取り組んでおります。ちょっと漏らしましたけれども、介護予防日常生活支援総合事業の中では地域のミニデイサービス等があります。以上です。

○議長 宮城清政君 13番 玉城 勇議員。

○13番 玉城 勇君 ありがとうございます。今、本町も多分同じだと思うんですけれども、高齢者が地域で、あるいは自分の家に住みながら地域で生き生きと生きていく、あるいは楽しく生活できるというのがどれぐらいの高齢者がそれを感じているのかなと非常に気になるんですけれども、実は65歳以上のひとり暮らしというのは年々ふえているんです。これは男性も女性も同じようにふえてきていると、高齢人口に対してもひとり暮らしの高齢者の割合が非常に多いものですから、男性では13.3%ぐらいです。女性ではもっと高く21.1%がひとり暮らしなんです。ですから、そういう皆さんが本当に楽しい、あるいは人生の後半で生き生きと楽しく生活できるという状況をつくるのが行政だと思えます。ですから先ほど言ったような3つぐらいの事業がございますけれども、それがどれぐらいの皆さんが参加されて、どれぐらいの皆さんが満足しているのかなというのが、先ほどのミニデイサービスとか社協の事業とかを見て、皆さんでどのぐらいのパーセントで感じているのか、もしその資料がありましたら報告をお願いしたいと思います。

○議長 宮城清政君 休憩します。

休憩（午後2時05分）

再開（午後2時05分）

○議長 宮城清政君 再開します。保健福祉課長。

○保健福祉課長 大城美恵子さん 地域のミニデイサービス、いろいろな事業をしております。まず地域のミニデイサービスの参加者が、延べ人数では年間3,784名の方が利用しております。その参加した方々は地域のミニデイサービスでレクリエーションや趣味活動をしながら、地域と交流できて楽しいという声が上げられております。以上です。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 補足、追加します。地域で行っております高齢者サロンですね、そのほうの実績としましては、延べ利用者数、平成26年が6,069人、平成27年が6,136人、平成28年が6,374人と。実施日数自体も平成26年が405日、平成27年が414日、平成28年が438日と、回数、利用者数も年々ふえている状況でございます。

○議長 宮城清政君 13番 玉城 勇議員。

○13番 玉城 勇君 ありがとうございます。やはりちょっと気になるのは、高齢者の皆さんの何割程度が参加されているのか。トータルではなくて、1回の用事にそれぞれの地域で何パーセントの皆さんが参加されているのか、もしその資料もありましたらお願いします。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 地域ごとにそれぞれ何パーセントの方がこの事業を利用しているという統計は出してはございません。ただ、例えばこの高齢者サロンにも、自宅から公民館まで行ききれない方とか、移動手段がない方についても高齢者の外出支援事業を使って案内していますし、また社協では在宅介護支援センターもございまして、ひとり暮らしでそういった支援が必要な方々の把握とか、そういった部分でも移動が必要な方とか、またちょっとこもりがちの方は、是非こういった場がありますからとか、そういうふうに社協と連携して取り組んでいます。高齢者をそういった形で地域で見守っていく、それから町全体で見守っていく部分では社協を含めて、社協に委託も含めてなんですけど、事業を13ほど行っています。それぞれの事業で、各字で支援が必要な方々、それからそのままにしておくとかこもりがちの方とか、そういった方々を把握して取り組んでいるわけございまして、そういった方々を支援するのは地域でボランティア活動される方が大変重要な鍵になってきますので、この高齢者サロンにかかわっているボランティアの方々も年々ふえてきていますので、そういった部分では社協としっかり連携して、地域と連携してしっかり支えていきたいと考えています。

○議長 宮城清政君 13番 玉城 勇議員。

○13番 玉城 勇君 ご苦労さまであります。孤立、閉じこもり、次の質問でやりますけ

6月19日（第3号）一般質問

れども、やはり1つの地域を見た場合にミニデイでも、あるいは地域の行事においても高齢者の割合からすると50%も参加していないのかなと思いますけれども、その残りの皆さんに、もちろん動ける皆さんに対してどのような声かけを進めているのか。地域では確かに社協の職員の皆さんと一緒に民生委員、あるいはボランティアの皆さんが本当によく取り組んでいるのは見えます。わかりますけれども、それでも参加しない皆さんがおりますので、そういう皆さんは自分は健康だからという理由もあるかもしれない。畑が忙しいとか孫を見ないといけないとか、それもあるんですけども、じゃあそういう方を含めて手助けが必要な方、あるいは車椅子で迎えに行かないといけないとか、そういう人を除いての動ける皆さんがどれぐらいの割合で参加されているのか。今後、どのような対策をなさろうとしているのか、もしそれがあればもう一度お答えをお願いしたいと思います。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 お答えします。ことし5月、先月でしたか、宮城の高齢者サロンに町長と同行して参加させていただきました。その場で感じたこと、議員もいらっしゃいましたので、大勢集まって大変賑やかではあったんですが、男性の参加者が1割にも満たない状況でございました。ですから、議員がおっしゃるどれだけの方がという、支援が必要な方とか、そういう方以外で来ない方というのはやっぱり男性のほうがすごく多いだろうと感じています。これは他の地域に行っても男性の参加者が相当少ないです。やっぱり畑に行ったり、そういった公民館、地域の場に余り参加したらない方もいらっしゃるのか、それぞれ個人ごとにいろいろな事情があると思います。そこを無理して出てきてくれというのはまた難しいと思います。あとは魅力ある、そこに行けば楽しいと感じる部分の工夫も必要かと思いますが、そこはやっぱり男性の高齢者の方々もそういった場に行くと、楽しく過ごせるということをおっしゃって、家から出てきて、地域の皆さん方と触れ合うとか、そういうことができるような地域にしていきたい。そのあたりは地域の皆さんと一緒に知恵を出して、そういった家に閉じこもりがちの方々はどうやって出てきてくれるかということ、今後いろいろな検討して取り組んでまいりたいと思います。

○議長 宮城清政君 13番 玉城 勇議員。

○13番 玉城 勇君 ご苦労さまです。先ほど申し上げたんですけれども、ひとり暮らしの高齢者が13.3%いる。女性では21%もいらっしゃると。そういう皆さんに声かけしないと、こういう皆さんが閉じこもりがちになる可能性があると言われておりますので、是非そういった皆さん。高齢者の夫婦だったらまだ話し相手がありますので参加しやすい状況があると思うんですけれども、ひとり暮らしの皆さんがなかなか出てこられないというのがございまして、そういう皆さんに対しての声かけ、あるいは地域でボランティア活動をしている皆さんに対して、そういう方を呼び込む、公民館に来てもらう、あるいは社協に行ってもらおうと、そういう声かけの仕方、その誘導の仕方を是非指導していただいて、孤立化が進まないように取り組みをお願いしたいと思います。

(2)の、ここでは孤立を防ぐということで質問します。それでは先ほどの答弁にもあったように、地域のミニデイサービス、あるいは高齢者サロン、同時にこれも活動等で孤立を防ぎたいという町の取り組みでございまして、それ以外にもいろいろとございしますが、実は高齢者の孤立を防ぐために高齢者が外出できるような環境を整備してあげると。そういうものも大事だと思うんです。それには就業活動、仕事をしてもらう、先ほども質問がありましたシルバー人材センターもございました。高齢者の皆さんも自分の持っている技術、あるいは能力を活用したいんです。その能力を地域に還元したいと思っています。ですからそれができるような環境を整備することによって孤立化が防げるんじゃないかな。あるいは閉じこもりも防げるのではないかと思います。ですから、そういう社会参加ができるような環境づくりが非常に大事だと思います。そこで、そのために外出する目的をつくってあげる。先ほど提案した、そういうものをつくる。だからそのためには移動手段を考えてあげないといけない。それも含めて非常に重要なこととございまして、これから本町の高齢者の皆さんがそういうふうな活動できるような環境づくりを町としてどのように捉えて考えているのか、あるいはどういうふうに進めようとしているのかお答えをお願いしたいと思います。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 まず、高齢者が閉じこもらず外出する機会の創出ということで、就労の機会ということでございました。本町ではまちづくりサポートセンターを社協のほうで運営しておりますので、そこで高齢者の方々も提供会員として登録していただい

6月19日（第3号）一般質問

て活躍しています。このまちづくりサポートセンターの事業成果としましても、口コミあるいは地域だよりを通じて、この活動の周知が広がってきて会員登録の方々がふえてきたと。提供会員が時間、それから自分の得意分野、技術を生かして生き生きと活動しており、次の依頼にも意欲的に活動していると。そういう事業の効果がはっきり見えていますので、このまちづくりサポートセンターを高齢者のそういった就労の機会の部分にも生かさせますし、生きがいづくりにもつながっていきけるものと思いますので、このまちづくりサポートセンターを社協とともにしっかり支援して、充実させていきたいと。

それから外出支援に関しましては、今本町ではコミュニティーバス等はありませんし、社協の巡回バスは健康づくり事業の一環での福祉バスの運営でございます。きのうの奈津江議員のご質問でございました買い物弱者も含めて免許返納した場合の高齢者、あるいは高齢者のみの世帯で免許保持者がいないとか、とにかく買い物に行くことさえも相当な不便を感じている高齢者が年々ふえてきておりますので、その支援はしっかり取り組んでいきたいと。高齢者の移動支援、例えば那覇市ですとタクシーの相乗り支援というのを取り組んでいます。そういった部分とか、家から出やすい、使いやすい、そういった移動手段のほうをしっかりと調査研究して今後の施策として取り組んでいきたいと考えています。

○議長 宮城清政君 13番 玉城 勇議員。

○13番 玉城 勇君 一番大事なものが、やはり高齢者が外出できるような、そういう環境づくりだと思うんですね。先ほど部長がおっしゃったように、移動手段を確保してあげると、これが高齢者の生きがいをつくるための事業だと思いますので、これについてはもっともっと具体的に煮詰めていただいて、取り組んでいただきたいと思います。できるだけ早目をお願いしたいと思います。

そこで今現在の高齢者は体力年齢が若いんです。まだまだ元気があるものですから、仕事もやりたいし、あるいは地域の活動もやりたい、若い人たちともいろんなことを体験していきたいと、そういう地域社会との、あるいは社協、町も含めて、社会とのかかわりを持ちたいというのが今の高齢者だと思います。そのことについて非常に意欲もあるんです。いろんなことをやって、またそれを高めていきたい。そういう皆さんの個々人の意欲が非常に高いものですから、その知識、能力をいかに町が活用できるか、あるいはそこを生かしていけるかというのがその人にとっての生きがいだと思います。そうすることによって意欲もますます湧いてくるし、能力も高まっていきます、知識も豊富に持っていますのでこれを活用してあげると。そういう活躍できる環境整備を町のほうでやっていただきたいということでございますので、町や社協、そういう組織が率先していくべきだと思いますので、もう一度お答えをお願いしたいんですけれども、町長はこれについて大いに力を発揮していきたいと常々おっしゃっていますので、町長のお考えをお聞きしたいと思います。ひとつよろしくお願いします。

○議長 宮城清政君 町長。

○町長 赤嶺正之君 それでは玉城 勇議員の高齢者の生きがいづくりと申しますか、これまで培ってきました技能、経験、そういったものが発揮できるような場づくりといいですか、それにつきましては先ほど来、所管のほうから答弁いたしておりますけれども、現在の地域ミニサービスあるいはまた高齢者サロン、老人クラブの活動等をしっかりと充実、強化させることが第一かと思っておりますし、またいろんな高齢者関係の計画もございまして、その計画に沿ったような形でまちづくり政策を進めていきたいと考えております。先ほど来ございましたように、高齢者の皆さんが就業できる、あるいはまた外出できるような環境づくり、議員がおっしゃるようなこととございまして、繰り返すようですが、まちづくりサポートセンターを充実、強化させるということが大事でございまして、また移動手段の確保に関しましても、これからまた社協等とも連携しながら検討してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長 宮城清政君 13番 玉城 勇議員。

○13番 玉城 勇君 それでは独居高齢者について、再度戻っていきますけれども、ひとり暮らしの高齢者は、同居者がいる高齢者と比較してうつが疑われる人が多いと。そういう人たちが多くいらっしゃると思います。その原因としては、やはり一人ですので収入が少ないとか、生活の満足度が低いとか、生活上の不安を抱えている皆さん、さらに精神、心理面での心配があると、そういうのがひとり暮らしの高齢者に今言われております。そういうひとり暮らしをそのまま継続していくと、今度は孤立したり、あるいは閉じこもり傾向になる可能性がある。そういうことにならないために皆さんが取り組んでいる事業、あるいは先ほどからおっしゃっているまちづくりサポートセンターの事業等を活用し

6月19日（第3号）一般質問

たり、紹介したり、そういうのを大いに進めるべきであります。ですから一旦孤立や閉じこもりに陥った皆さんを救うというのは並大抵に努力ではできないと。そこに陥ったら大変なものですから、そこに入る手前で助けてあげる、その人たちが逆に生き生きとした生活を迎えるような方向に誘導してあげると、それが行政でございまして、そこで今現在、いろいろな取り組みをしている皆さん、生き生きとしている皆さんをそのまま継続していただくと。それはまた行政の事業があるわけですので、その事業を是非取り組んでいただいて南風原町の老人が元気で生き生きと生活できるような、そういう環境を維持していただいて、さらにもっとももっといろいろな事業を考案して、南風原町独自の事業も取り組んでいただきたいと思いますので、是非頑張ってくださいと思います。よろしく願います。

それでは最後の（3）の質問にまいります。本町は、非常に高齢化率が低いんです。人口は若い人が多いと言われておりますけれども、ただ、先ほどの答弁にあったように神里とか宮城、兼本ハイツ、高齢化率が非常に高いんです。もう30%いつているんです。そういう状況はやはり改善しないといけない。本町は16.3%なんです、高齢化率は。しかし、その中で30%行っている、超えている地域があるわけです。こんな都市部においてこういう状況は本当にあってはならないことだと思うんですけれども、これには原因がありますね。なかなか住宅建築ができない、集合住宅ができない、人口が減っていくと、そこに家ができないものですからよそに行くわけです。そういうのも改善しないといけないんですけれども、これは行政のこれからの取り組みになるとは思いますけれども、是非見直しについても取り組んでいただきたいと思います。そこで今検討してほしいのは、沖縄県は19.6%ですけれども、あと20年もすると30%超えると予測されているんです。そうなる前に南風原町も考えていかないといけない。ちなみに全国でいうと27.7%なんです。しかし、南風原町はそれを超えている地域が5カ所もあるんです。これについて町はどのように取り組んでいくのか。高齢化率を下げっていく、この事業、あるいは考えとしてどういったものを持っているのか、これを教えていただきたいと思います。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 お答えします。高齢化率を下げっていくという部分に関しては、これは全国、団塊の世代が後期高齢者を迎える2025年に向かってどんどん高齢者はふえていく状況でありますので、高齢化率を下げっていくという部分は大変難しいと思います。日本の人口の構造上、出生数も減少していく中で高齢化率を下げっていくというのは難しい部分があるのではないかと思います。ただ町内の、この地域のアンバランスの部分からいうと、このあたりでは土地利用の見直しとか、そういった部分がかかわってきますので、これはまた町全体的な部分での構想が必要になってくるかと思えます。ですからその高齢化率でいいますと、先ほどから議員がおっしゃっていますように、健康長寿ですね、高齢化率は高くても健康な高齢者が多い町、そういう町を目指して健康長寿の取り組み、そういったものをしっかりやって、高齢化率は高くても皆さんが元気で生き生きと暮らしている地域、そういった地域を目指して我々は計画も策定して、そのようになるように取り組んでおりますので、しっかりその計画に沿って取り組んでまいりたいと思います。

○議長 宮城清政君 13番 玉城 勇議員。

○13番 玉城 勇君 部長おっしゃっているように是非取り組んでいただきたいと思います。それから南風原町においては高齢化地域が出ておりますので、そういう現実にありますから、もっともっと真剣に捉えて事業を進めていただきたいと思います。